

恒例の「古江台ホール」での年末餅つきボランティア

平成19年から毎年行っている池田の特別養護ホーム古江台ホールでの餅つき、今年も12月27日(金)午後1時から16名の会員が参加して行いました。最初の年は、男性4名が参加し、玄関先での作業。場所も狭く、屋外の寒さで作業も大変。入居者の手伝い、見学もままならぬ等意見が出て次回からは室内で行うようになり、今回で7回目。ホーム内4箇所を杵、臼を運搬して行いました。



男性は餅つき臼取り、女性はエプロン、三角巾着用、まるめ等役割分担、入居者皆さんの手拍子とかけ声で餅つき開始。香りの良いよもぎを入れてのよもぎ餅、色鮮やかな赤えびを入れての赤餅を各場所で2臼ずつ、入居者の方も軽い杵で昔を思い出してついたり、小餅作りのお手伝いには昔とった杵柄を皆さん

にご披露したり、楽しいひと時を過ごされ、大変明るい表情で楽しそうにお手伝いをしているのが印象的でした。

午後3時30分頃に無事終了。談話室で出来上がったお餅にあんこや大根おろしをつけて皆さんと食味、最後に施設長より感謝の言葉を頂きました。皆さんお忙しい年末にご参加頂き厚くお礼申し上げます。(木村良三)



「子育て支援者向け研修」に参加して



1月8日(水)、「子育て支援者向け大規模研修会」が大阪市立子供文化センターで行われた。司会進行役のナルク箕面の中田恵美子さんの笑顔で挨拶の後、岡林一枝さんをコーディネーターとして第1部のパネルディスカッションが始まった。岡林さんは幼稚園の管理栄養士として10年勤務した後、子供向けの栄養誌の編集を担当、その後子供未来財団で研修事業を受けもたれている。

最初のパネラーはナルク高槻の福地洋子さん。保育の仕事で退職後短大の講師として保育一筋に歩んでこられた。子育ての現場は育児の孤立化が進んでいると話され、ぜひこの人たちに声かけをして欲しいと訴えられた。二人目のパネラーはナルク丹波の笹倉武史さん。子供の自然体験が減っている事を危惧し、「丹波ごちゃ混ぜ自然体験」の子育て支援活動を行っている。子供夢基金などから助成を受け、自然の中で子供たちが生き生きとしている姿を見守っているとの事だった。ナルクの高畑会長は人を愛し他人のために手を差し伸べるボランティアの精神を述べられた。



休憩の後、第2部は阿川佐和子さんの講演。小柄な彼女は演壇の前に立ち簡単に経歴を述べた後、定年後に起こりがちな夫婦の危うい関係について軽妙な語り口で話され、場内の笑いを誘っていた。またボランティアの経験としてアメリカのスミソニアン博物館での子供の見守り経験を話され、英語が流暢でなかった彼女と幼児との会話を面白く聞かせて下さった。最後に夫婦生活を円満に過ごす秘訣として、まず相槌が大切でオウム返しでも良いこと、次に上級テクニックとしては日本語を英語に変えて言い返せば良いと締めくくられた。歯切れのいい言葉と巧みな話術、本当に楽しい時間だった。中田恵美子さん、そして関係者の皆様ありがとうございました。(吉田光代)